

2021(令和3)年度 事業計画・予算基本方針

1. 建学の精神の共有と深化

○ 建学の精神の共有と深化

教職員が建学の精神を共有し、カトリック大学としてのアイデンティティを日々の教育・研究活動の基盤とするように図る。

○ 70周年記念事業の実施

- ① 2021年6月20日に記念式典を実施し、建学の精神や愛校心の再確認に繋げる。
- ② 重要文化財指定を受けた旧島津家本邸やジョサイア・コンドルに関する学術的な研究や啓発活動を進める。
- ③ 将来の大学史料室設置に向けて、大学史料室(準備室)を設置し、大学史料室開設のための準備に入る。あわせて、大学史に関する資料の収集・整理を開始する。

2. 教学の充実

1) カリキュラム改革を中心とした教学改革

- ① 在学時及び卒業後の人生にも資するような教育を進めるための新カリキュラムへの移行を、教職協働のもとできるだけ円滑に実施する。
- ② 新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて安全に十分配慮しながら、対面授業をできるだけ多く復活させる。
- ③ 共通科目の充実、副専攻の整備、ICT関連授業の強化、PBL活動の充実、グローバル化への対応等について、具体的な取組みを進める。
- ④ 単位の実質化を図るため、シラバスやアセスメントの整備を促進する。
- ⑤ アクティブ・ラーニングを促進する授業手法、課題提出等に関するICT活用、多様な学生に配慮した授業などに向けたFDと、教員及び学生への教育・学修に関する支援力を高める各種施策を行う。

2) 学生支援体制の拡充

- ① 教育・学修支援センターの行う、学生の学修支援、共通科目に係るマネジメントや授業実施等に係る総合的・多面的な教育支援を促進する。各種支援は各部署や各学科が担う面も多く、センターは各部署・各学科と連携しつつ、学生の立場に立ったEM(エンロール・マネジメント)に携わると共に、支援業務に当たる職員向けの研修を行う。
- ② 安全で居心地の良いキャンパスの維持と、対面・オンラインに関わらず学生生活の充実度を極力落とさないことをめざし、奨学金や課外活動の支援は学生課、キャリア支援は就職課、健康関連事項はウェルネスセンターが中心になって支援を行う。そのために、学生カルテ等を十分活用しながら情報共有を行い、教職員が協働して学生支援

を進める。ラファエラ・マリアセンターは、キリスト教ヒューマニズムに添った学生支援を進める。

3) 教学の質保証

- ① 新カリキュラムに即した学修成果の可視化に向け、アセスメントの拡充と分析など、指標と方策の整備を進める。
- ② ディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）の再検証を含め、教学に関する質保証システムを、整備・強化する。

4) 定員管理の徹底

- ① 文学部は必要な受験者数の確保を図る一方で、入学定員（390名）の1.13倍（約440名）を上限の目途とする。
- ② 文学部の留年者を減らし、収容定員の適正化を図る。
- ③ 大学院は入学定員及び収容定員の適正化を図る。

5) 入試改革

2021年度入試改革（総合型選抜・学校推薦型選抜）の結果を踏まえ、高大連携やアドミッション・ポリシーとの連動も図りつつ、新学習指導要領で学んだ高校生が受験する2025年度入試に向けた検討を進める。

6) 研究活動の活性化

- ① 人文科学研究所、キリスト教文化研究所、言語教育研究所、生涯学習センターと大学院の連携強化などを進め、教員・大学院生への研究支援体制の充足を図る。
- ② 建学の精神の中核をなす「キリスト教ヒューマニズム」に関する学際的な研究プロジェクトを、学内外の教員・大学院生を中心に推し進める。
- ③ 姉妹校・カトリック大学や協定大学・近隣大学との、研究や大学院教育での連携強化を図る。

7) グローバル化の促進

※ 新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、安全の確保を図りつつ、可能な形で以下の諸項目について進める。

- ① 在学生の留学を支援し、提携大学からの正規交換留学生の受け入れ体制を強化する。
- ② 学生の語学力を高め、異文化理解を深化させる。
- ③ 留学生と日本人学生の交流を促進する。

- ④ 国内外の他大学との連携を更に進める。
- ⑤ 受け入れる留学生の増加・多様化について議論を進め、諸条件を整備する。
- ⑥ 発展協力会の給付型奨学金およびチャレンジ支援奨学金を活用して国内外での学びを支援する。

8) 広報の強化

2021年度からの新カリキュラムを中心に、「新しい」清泉の「教育力」を軸とした入試広報を、オンライン、オフラインの両方向から展開する。また、重要文化財に指定された旧島津家本邸を一般広報に活用する。

9) 地域連携の推進と社会貢献の充実

- ① 品川区や鹿児島県、いわき市田人町、いちき串木野市等との地域連携体制を維持・強化する。
- ② 他大学との可能な連携・協力を進める。
- ③ 学内の生涯学習センター、ラファエラ・マリアセンター、3研究所や、学科・大学院・部署間の連携を深め、地域貢献・社会貢献に向けた全学的な体制の整備・強化に努める。
- ④ 地域連携や社会貢献に関わるPBL（問題解決型学習）に学生を採り込み、授業外の体験・学びの場となるよう支援する。

3. 施設・設備の充実

1) 施設・設備の維持・更新

- ① 410 教室・図書館空調設備改修等を行う。
- ② 図書館の書架スペース不足への対応を検討する。
- ③ コアスイッチ交換等及び一般教室 AV 設備改修等を行う。

2) 施設・設備の長寿命化

- ① ラファエラ棟外壁改修等を行う。

3) 3号館耐震工事

- ① 3号館耐震工事を行う。

4) 5号館の維持・保存

- ① 聖心侍女修道会から譲り受け、設備改修等を行う。

4. 健全な財務を維持できる体質の確立

1) 財務指標と目標設定

- ① 財務力を強化するため、経常収支差額比率、対経常収入人件費比率、手元流動性資金の

3つの数値を指標として目標を設定する。

② 専任職員数は47名、専任教員数は50名を基準とする。

2) 収入増の取組み

① 本学の教育を改善・推進するための補助金の獲得をめざす。

② 発展協力会会員の裾野を広げる取組みを行う。

③ 新規寄付金制度の設計と発足の準備を行う。

3) 支出の抑制と見直し

① 人件費の抑制。教員給与・賞与抑制案を提案し協議中であり、2021（令和3）年度中の合意をめざす。

② 専任教職員の後任採用人事時の配慮。今後数年の間に定年退職する専任教職員の後任採用に際しては、年齢構成や雇用形態の構成等について配慮する。

③ 諸経費の抑制／削減。業務効率化、相見積もりの徹底などの取組みを継続する。

④ 2号館建替に向けた2号基本金積立開始を検討する。

5. 人事制度・組織・運営の改善

1) 組織（部署と委員会）の整理・統合への検討・準備と、整理された業務プロセスの構築

① 部署と委員会の数をそれぞれ4分の3程度に減らすよう、検討を加え、具体的な計画を立案する。

② 業務プロセス自体を見直し、簡素化・効率化を図る。

2) 人事

① 特別任用教員制度等の見直しを検討して、教育内容・方法や教員業務の多様化に対応しうる教員採用人事を進める。

② 教育支援組織、スタッフの充実を図り、あわせて教職員研修会を実施する。

③ 働き方改革を踏まえ、就業環境等の改善、効率的な人事・組織運営を行う。

6. その他

① トランスジェンダーの受け入れ体制に関する検討を開始し、学内の教職員、在学生に向け、説明と意見聴取の機会を設定し、広く意見を聴取する。

② 危機管理体制の整備・強化を検討する。